

共に燃やせ! バレーボールの炎
新たな挑戦の時!

ニ才上の兄が中学生になり、部活動を選択する時に、兄の通う石狩市立花川中学校に、男子バレー部が無いことを知った。高校や大学でバレー部に入り、強豪校を倒したいと思つてゐる僕にとつて、これは致命的だ。そんな中、昨春、ガエイツ石狩V.B.というクラブチームに出会つた。「やつたー!!中学生になつてもバレーボールができるぞ!!」まさに運命の出会い。すぐに入団を決定した。ガエイツに入つて一年が経つた。僕は小学生チームの、兄は中学生チームの、キャプテンを任されている。中学校でバドミントン部にも所属している兄は、ガエイツと部活動との両立で、かなり大変そうだ。友達や先生との関係や勉強面での不安もあり、来春から迎える中学校生活で、ガエイツの他に部活動をやるかどうか僕は正直迷つてゐる。

二〇二三年から、中体連など部活動の大会にクラブチームも参加できるようになった。部員数の減少や先生方の働き方改革の影響で、中学校での部活動は今後、縮小の道をたどるだろう。部活動の地域移行は、緊急の課題だという。

この新聞では先ず、ガエイツ石狩V.B.の活動の現状と課題を見つめたい。さらに、ガエイツの活動を、部活動（中学校における教育活動）の一環として捉え直し、必要な提言を行いたい。

カエイツには、時々練習に現れて熱心に指導して下さる自称「通りすがりのオジさん」がいる。石狩市立南中学校教諭、同女子バレー部顧問の黒田好樹先生だ。「カエイツは学年やバレー歴、運動能力などの異なる色々な子供達が集まっています、どの子に、どのように伝えたら、もっと上手くなるかを考えることができる。自分自身の勉強のために参加させてもらっているんだよ」と教えてくれた。

この他にも、プロチーム主の合同練習会や練習試合などに、まだまだ弱いカエイツをにかけてもらっている。

カエイツは多くの人のサポートを受けているようだ。今年から中体連の大会に出場できるようになったのも、まさに周りの人々の力によるものだ。カエイツ石狩VBの寺聖人代表は語った。

小学校六年生の僕がカエイツでやっ

